



## 花巻、ポリテク センター岩手

# 技術習得へ初の企業実習

## テクニカル ワーク科 受講生熱心に訓練

花巻市天下田の独立行政法人雇用・能力開発機構岩手センター岩手職業能力開発促進センター

「実践で身に付けるものは大きい」と熱心に訓練に励んでいる。

十五人男性十四人、女性一人が受講している。訓練内容は、構造物製作に必要な溶接技術やNC(数値制御)工作機械プログラム作成の習得とともに、企業実習を組

(ポリテクセンター岩手)による、新規訓練「テクニカルワーク科」の受講生たちが県内の各企業で実習を続けている。訓練プログラムの中心に企業実習を組み入れたのは初めてで、受講生たちは

同センターは、若い求職者を対象に新たな技術・技能を身に付けてもらう狙いから、十九年度新規でテクニカルワーク科を設置し、七月にスタートした。六カ月間の訓練日程で花巻市や八幡平市、平泉町など県内から

企業実習で技術習得に努めているテクニカルワーク科の多田さん(右)と中央コーポレーションで

入れたのが大きな特徴。五カ月目を迎え、全員が四週間の企業実習に入った。

協力企業は盛岡市や北上市、奥州市などの製造業十一社。このうち花巻市東宮野目にある中央コーポレーションでは、多田賢史さん(三〇)同市高松IIが企業実習に励んでいる。ベテラン社員の指導を受けながら、溶接や鋼板孔開け作業に携わり、「まだまだ不慣れた

けど、得難い経験だし、やりがいを感じる」と作業に集中していた。同社の佐々木史昭社長も「技術の習得に企業実習を組み入れることは、地元定着率の向上などプラス面が大きいのでは」と語り、企業側にとっても採用への検討や即戦力の人材育成につながるメリットとして評価していた。

企業実習は今月下旬まで。その後は再びポリテクセンターに戻り、最終的な応用作業で同科を修了する予定。同センターでも、企業実習で身に付けた経験を生かし早期就職に結び付けてほしい、と受講生たちに熱い期待を寄せている。